

## 令和元年度 第2回 川崎市小学校教育課程研究会 報告書

分科会名  <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">生活科</div> 令和元年8月20日(火)	会 場 川崎市立川崎高校附属中学校 助言者 川崎市立小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究会副会長 <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">小林 美代</div> 川崎市総合教育センター <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">石井 芳宏指導主事</div> 提案者 川崎市立古川小学校 <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">伊藤 利恵</div> 司会者 川崎市立上丸子小学校 <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">藤代 崇行</div> 記録者 川崎市立上丸子小学校 <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">北山 卓</div> 世話人 川崎市立岡上小学校 <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">柴田 大地</div> 出席者数 200名
---	--

### 1 提案の概要

#### 2年「このまち大すき たんけんたい2」

単元目標を「地域を探検したり、そこで生活したり働いたりする人々と繰り返し関わったり、交流したりする活動を通して、自分の生活が地域の人や場所と関わっていることよさや楽しさに気付き、地域や人に親しみや愛着をもって生活するようにする。」に設定した。内容は(3)地域と生活(4)公共物や公共施設の利用(8)生活や出来事の交流。5月のまち探検で地域の関心を高め、夏休み後に繰り返し探検に出かけることで、地域を支えている方の思いに気付き、地域や地域の人に親しみや愛着をもてるようにする授業提案であった。

学年で1年間を見通した学習活動について話し合うことで単元を構想することができた。

伝え合うことよさを感じられるために、3人グループでの話し合いなどの活動を多くすることで、自分が見てきたことを振り返ることができ表現活動の充実につながった。またそのことで、友達の考えを大切に、友達の考えを認めようとする姿が見られた。

メモが書けるようにした簡単な絵地図を探検や学習の見通しをもたせるために活用した。また拡大地図を用意し、写真や付箋を使ってまとめ可視化した。自分でも振り返ることができるように手帳の大きさに縮小したものを貼ったことで「また見たい」「また聞きたい」「また会いたい」という「すてきな人」のことをもっと知りたいという思いを次の活動につなげることができた。

何度も探検に出かけ、繰り返しまちの人たちと関わり、体験活動と表現活動を繰り返し行うことで「このまちがまち大好き」「まちの人たちがぼくたちを見守ってくれている」という思いにつながることができた。

### 2 研究協議の概要

＜グループ活動について＞

- ・探検するメンバーと話し合う時のメンバーは違う人になるように工夫した。話し合うときには年間を通して3人になるようにした。

＜2年生の生活科を終えて総合的な学習の時間とのつながり＞

- ・社会科のスタートですてきな人がたくさんいるまちと子供たちは答えていた、2年生で行けなかったところに多く町探検で行くように心がけた。学校が好きというスタートで総合を始めることができた。

＜まちの人の思いに迫るために＞

- ・教師の「どうしてこんなに優しくしてくれるのだろう」という意図的な問いかけや価値づけ、繰り返し人と関わることで迫っていった。

### 3 今後の課題

- ・生活科の学びを、中学年以降の学びに効果的につなげる方法やシステムをつくること
- ・子供に生まれた気付きを教師がしっかりと受け止められる場の設定

### 4 指導講評

＜内容(3)地域と生活について＞

- ・大筋の中身は決まっているが、子供の願いや思いを生かした学習を展開していくことが大切。
- ・単元をつなぐ→1回目のまち探検での振り返りをしっかりし、子供たちの思いや願いを読み取り、人に着目して2回目の探検を計画できた。
- ・暮らしとつなぐ→学校と町が相互に理解することが大事。学校から伝え理解してもらおう。町のことを知る。

＜指導主事より＞

- ・小学校生活科における評価規準を作成する際の手順→生活科における全ての内容は4つの規準で構成されているので、文末を「～ている」に変えることがポイント(指導主事配布資料参照)